

# 平成29年度農地集約モデル事業

## 「情報交換会」を通じて 借入耕作地の交換が実現しました

昨年の12月12日に市役所藤島庁舎会議室において、平成29年度農地集約モデル事業「情報交換会」が行われました。

本市での担い手への農地の集積はかなり進んでいるものの「農地の集約」という点からみると進んでおらず、担い手に農地が集積されるにつれ、ほ場が分散していくという傾向があります。

生産コストの削減を図るうえで、このように分散されたほ場を集約する必要があります。

農業委員会では、分散したほ場の解消を図りたいと考えている農業者も少なくないことから、平成29年度に試験的に藤島地域八栄島地区で「情報交換会（交換の話し合い）」を行いました。

事業の実施にあたっては、市農政課、藤島庁舎産業建設課と農業委員会が、8月初旬からJAや土地改良区、農地所有者や専業農家、兼業農家

からの話を聞く機会を設け、事業の進め方を検討しました。聴き取りした内容からは、耕作地の交換は一部の地域で自主的に実施されたことはあったものの、行政主導で行われたことはなく、生産コスト削減の観点から耕作地を交換したいと考えている農業者は大規模農家を中心に相当数あり、また、農地の所有者も「適切に耕作してもらえれば、借り手は問わない。」という考えも一般的になってきたことが伺えました。



分散ほ場の様子(八栄島)

ほ場条件の違いや、有機栽培を行うための制限などハードルはあるものの、まず、希望する農業者が、交換できる

ほ場から実施し、農地集約化の取り組みに一石を投じようと、事業実施に一步を踏み出したものです。

### 情報交換会の様子

当日の情報交換会は、藤島八栄島地区の担い手に、事業の主旨・進め方を説明したところ、9経営体の参加があり、農業委員、農地利用最適化推進委員、やまがた農業支援センター職員および市農政課、藤島庁舎産業建設課、農業委員会事務局職員が同席して開催されました。



開会行事の後、参加者の自己紹介をし、その後、ほ場の状況を示す図面を囲み、自分の耕作している土地の特徴や条件など、自由に話し合ってもらいました。

その場には農業委員、農地利用最適化推進委員も同席し、必要に応じての助言もあり、意義のある活発な情報の交換が行われました。

### 3・5組の交換が成立

情報交換を行った結果、互いの条件が合致した、3組7筆（約3・5畝）を交換することとなり、所有者の意思確認したうえで、2月には農地中間管理機構を通しての貸借が成立しました。

今後は参加者からいただいた感想や意見等を参考にして会の進め方などを検証し、段階的に、全市で取り組めるよう検討していきます。